

希



い

親の会だより

第69号平成23年7月

発行

東大阪市手をつなぐ親の会

(年3回)

(題字 吉岡名誉顧問)

会長あいさつ

会長 坂本 ヒロ子

いつも東大阪市手をつなぐ親の会活動にご支援、ご協力下さいましてありがとうございます。

東日本大震災で被害を受けられた方々のことを思うと、このように総会が開催できることを幸せに思います。

5月下旬、全日本手をつなぐ育成会の評議員会に出席し、被災地の理事長さん、会長さんからいくつもの施設、グループホームが流され、行き先がわからず義援金を渡せない(特に就職・在宅の人の所在がつかめない)、成年後見制度を利用しないといけない人がいる(親、家族が不明)、仮設住宅に入所が困難な障害のある人がいる、就職をしたいが就職先がない、授産製品の販路がない等々話されていました。

東大阪市手をつなぐ親の会でも防災プロジェクトチームをつくり、現在東大阪市における障害者の防災に対する施策を調査し、障害のあるわが子を守るため、私達ができることは何か、何が足らなくて何を市にお願いし、協力していかなければならないかを検証していきたいと思います。(青山会の定例役員会で、災害時備蓄食料について、各施設3日分程度の備蓄食料のリストアップも議題にあがっており、親の会のプロジェクトチームと協同してやっていきたいと言われました。)

皆さまのご理解、ご協力をいただき、特定非営利活動法人 東大阪成年後見支援センターは4月1日に開所いたしました。ありがとうございます。あたたかい励ましのことばをいただきうれしく思いますとともに、これからもますます精進していきたいと思います。変わらぬご支援をお願いいたします。(東大阪市より400万円の補助金がいただけることとなりましたことをご報告させていただきます。)

5月には、9件目のケアホームがみなさまの協力を得て建設、運営され49人の方が生活を送られることとなりますが、東地区2カ所、中地区7カ所で西地区には地代が高いこと、グループホーム、ケアホームには狭いこと等で希望されている方が多いにもかかわらずありません。今度、建て替えがされる高井田にできる市営住宅がグループホーム、ケアホームとして使用することができると西地区での地域生活が広がっていくと思われまます。

これからも、私達でできることは私達でしていきながら、活動していきたいと思います。阪神大震災の時もそう思いましたが、手をつないでいることの大切さをあらためて思いました。

仲間と地域の人と行政と、しっかり手をつないでまいりましょう。

第12回全日本手をつなぐ育成会

地域活動、就労支援事業所協議会全国大会(北九州大会)

黒崎 陸子(東福六万寺)

平成23年2月4日～2月5日 北九州市戸畑区 参加者300名

基調報告 副島理事長

1) 障害のある人の現状を知る

育成会の取り組みは、地域づくりの運動と実践である。

私達が目標とする社会は「障がいのある人を世間から排除するのではなく、地域社会に包み込む社会づくり」を目指すこと。

障がいを持った人達が自立生活をするのに、多くの困難を伴う理由は、幼い時から様々な経験をする機会を与えられず、健常者との自然な関係を育めずきたため本来人間として大切な「生きる力」を身に付けることが出来なかったからです。

地域で生きていく上で必要不可欠なことは、生きる力を付け、生活の幅を持つこと。日々地域の中で過ごし、地域の人達との関わりの中で当たり前身に付くことです。育成会が目指す目標は、障がいのある人を受け入れ共に暮らす「地域づくり」であると話されました。

東日本大震災の地域で仲間が、どうして暮して居られるかとても気になることでした。先日、総会で講演して下さった小田様が「避難所で又、親類の家で過ごせる人は、日頃如何に地域の人達に理解してもらえていたかにかかっている。私達でも大変なんだから、彼(彼女)がパニックになるのは分かる」と受け止めてもらえたようだと話されました。

2) 事業所の目的と役割を見つめ直す

今までどのような重度の人でも受け入れてきた取り組みは、地域の中の大きな支えでありました。この取り組みこそ親の会運動の原点であったと思います。

しかし、発足時の集まる場所があればよいという取り組みから、日中の場・就労する場への位置づけ、更には生活する場を組み入れていくなど新しい時代にあった姿へと変化を遂げながら、地域で再び輝いていかなければならない時代になりました。

障害者改革推進会議では、障がい者が地域で主体的に生き、共生社会の構築の推進力となっていくことが議論されています。

地域づくり＝社会貢献と話され、最後に原点に戻って作業所を作った時、法人を作った時の親の思いを若い人に伝えてほしいとあつく語られました。

シンポジウム

事業所を発展させ、地域づくりの主体者に

<沖縄市>

発展とは、地域とはそして誰の為に何をなすべきか。

サービスの質を高める為に移行した。

利用者の確保が大変で事務量が増大した。

地域との事業の協同経営、地域からの支援員や運営委員



理念を重視した細やかなサービス。
地域は小さければ小さいほどよいと思う。
沖縄市では、高卒で就労継続Bに入れる。
保護、収容の場には親は預けたくない。
入所施設は地域を支える役目を担っている。

<鹿児島市>

送迎ない。親の手伝い多い。建物は民家。スタッフは専門性がない。
利用者の引き抜きがある。利用者・親・事業主共に高齢。50年で組織疲労か。
地域を耕すというのが支援ニーズの高い人ばかり。
親亡きあとの不安増大が育成会ばなれを起こしているのではないか。
でも、私は親の会が大好きです。
育成会の理念は親の愛を育む会ではないか。
もっともつとこのような地域のことを考えてほしいと話され、理事長もたじたじ
新事業体系に進まないのは情報が乏しい。
イメージがわからない・・・今頃になって何故？

第2分科会

移行後の事業展開と地域づくり

生活介護、地域活動支援センターの今後の事業展開について話し合うと共に地域づくりにどう関わっていくか。

<宮崎県>

移行後運営が向上すると思っただが変わらない。
事業の継続 支援力UP 職員の処遇改善。
信じてくれている利用者、家族の為にがんばりたい。

◇発言者 厚労省 地域移行支援室長補佐

<所得補償について>

工賃倍償は自己実現設定を考慮してサブタイトルにするべきだった。
福祉の現場に就労（働く）という意識があまりにも低かった。（日中活動が居場所と考えている）
支援学校高卒した人は、就労継続Bに入れたい。在学中に作業所でアセスメントして就労継続Bを使えるようにしてほしい。
現場を見て地域づくりを。現場のほしい情報が届かない。
県、市町村をつなぐパイプ役になってくれる人を強く求める。

全国大会に参加すると地域格差を実感します。お陰さまで青山会には、日中活動の場があり入所施設、短期入所、GH、CHそして居宅事業、相談支援センターがあり懸案であったNPO成年後見支援センターもスタートしました。

これまで東大阪市手をつなぐ親の会、青山会を育てて下さった多くの先輩や仲間へ感謝いたします。

日中活動の場がただの居場所ではなく、多様な働く場を提供出来る存在であり、GH、CHがほっと安らぎ憩えるホームであり、さまざまなサービスを受けたら、皆さんが一人の人間として“精一杯生きたよ”と人生を全うして下さる様、5年後、10年後のビジョンを共に考え、愛する家族の為に頑張らねばと思いました。

「障がい児者家族のための防災勉強会」

—いざというとき、我が子をどう守るか—

阪上 豊子（東大阪福祉作業所）

NPO法人ぴーす理事長 小田 多佳子さんから、障がい児・者の防災に取り組んでおられるぴーすの活動を聞かせていただきました。

そのきっかけは、新潟県中越地震で知的障がい児・者家族が避難生活に大きな困難を抱える姿が浮き彫りにされたからだそうです。

新潟県中越地震では、子どもが大きな声を出すから、人に迷惑をかけるので子どもを避難所に連れて行けず、車での避難生活を送っていたお母さんが、エコノミークラス症候群で亡くなっています。

ぴーすが心配されたことは、何よりお母さんが安全に避難するのをあきらめて、我慢してしまうことにあります。車の中で避難することを選ぶ方は、避難練習キャンプをし、家族でテントで寝て、楽しい思い出をつくっておいてあげてほしいと話されました。

一次避難所にこだわるのは、救援物資が届かないからです。

防災は3つの「助」が大切だといわれています。

- 1つ目は、「自助」 自分で自分の身を守る
- 2つ目は、「共助・互助」 市民が共に互いに助け合う。
- 3つ目は、「公助」 公的な防災

地震発生から3日間は公的な援助が届かないため、この3日間は「自分で自分の命を守る」ことが最優先です。

避難する部屋を家族で決めておき、家の中にいる家族は災害時、その部屋に集合する。家をすべて「安全にする」のは生活上難しいので「1つだけは完璧に」がおすすめだそうです。避難部屋は高い・重い家具やガラス扉の家具は置かない、ガラスなどに飛散防止フィルムを貼る、必要な持ち出し品を置いておく。

障がいのある子が外出しているときに被災した場合、自ら助けてほしいことを伝えるににくいコミュニケーションに障がいのある子は、被災した瞬間すぐ側にいる人にいかに適切に助けてもらえるかが重要です。

東日本大震災では、自分の住所や名前が言えないために、今も行方不明になっている障がい児・者がたくさんいます。

ぴーすでは、被災した瞬間すぐ近くの人に助けてもらえるような工夫として、防災手帳やワッペン等を作成し、このような災害時要援護者の存在を啓発するためのポスターを市内の民生委員全員に配布されています。

親自身が怪我をして我が子を守れなくなった時のため、家族の安否確認を依頼できる『ぴーすの災害時安否確認ネット』も設置し、災害時、災害伝言ダイヤルで家族が安全に避難できているかをぴーすが確認されています。（堺市在住の利用会員のみのみ）

知的障がい児・者の避難に対する不安には、事態が理解できずに混乱する・不安になるのをどうすればいいかということがあります。せめて気分を変えるために、乾電池で開けるグッズがあれば良いということ、障がいゆえに我が子ならではのこだわりの物を用意する、日常的に自分たちの存在を近所の人達に正しく理解してもらうことも大事といわれていました。

ぴーす スタッフのほとんどは、障害児の母親だそうです。今回は啓発活動で来られましたが、相談業務や余暇活動支援などもされています。

防災については、もし今、堺市に大きな災害がきたら私達はどのようなのだろうか？自分達でできることはないかということを考えられ、災害時要援護者マニュアル『安心の第一歩』を作成され、2005年防災教育チャレンジプランでは、特別賞を受賞されています。

障害児を抱えながら、こういった活動をされているびーすの方々に頭が下がる思いで聞きました。良い学習をさせていただき、東大阪市にも役立てられたらと思いました。

利用者と家族支援を考えるワークショップ

6月10日（金）第1回目のワークショップを開催しました。

利用者支援と家族支援を考えるワークショップ 一昨年の9月にも東大阪で文化会館をお借りしまして開催致しましたが、いままでにも他所でも開催にご出席頂いたかと思えます。

今年度の総会の前段で話させて頂きましたが、全日本手をつなぐ育成会が2008年から厚生労働省の助成金をいただき、家族支援プログラム、障害認識プロジェクトと云った「まず親自身が変わろう」をテーマに、子育てと親自身の人生のバランスを、どのように取っていくかを考えるきっかけになるようなプログラムを作り始めました。

親と子は別的人格を持った人間あることを認識し、わが子の自立を考える時、親はどう変わっていけばいいのでしょうか？ その時の気づきや変わり方は皆さんそれぞれでしょうが、障害のある子どもだけでなく、親自身も生きやすい環境作りをするのに前向きな気持ちになって貰えるよう、親の自立によって子どもの自立も可能になる事に気づき、親子密着でない日常生活が送れるように切っ掛けになるようなプログラムが出来ました。そのワークショップのファシリテーター（進行のお手伝い）養成講座を、昨年、一昨年と坂本会長と受講させて頂きました。

数人のグループになって頂き、その時々で学習プログラムや点検ワークを行ない、それについて皆さんで話し合っ頂き、その中から今までにない自分に気づいたり、他の方のお話で学んだり出来ればと思っています。諸先輩方の経験談も聞かせて頂きたいし、若い世代のいろいろなツールも学び合う事も！

もちろんお互いに安心・安全な中で気持ちや考えを話し合っ頂くために、幾つかのルールの説明もさせていただきます。

その後は、お茶を飲みながらおしゃべりで楽しみたいと思います。また、ワークの中からお悩みや相談等が出ましたら、総会資料にもありますように親による相談日がワークショップの日程になっています。

会場の第2東福の多目的室の隣には、東大阪成年後見支援センターも有ります。また、1階には相談支援センターも有ります。また、それらの機関もご利用下さい。

当日は、初参加の方も含めて数人の方にご参加頂きました。いろいろな方向からの話が出てきて、進行役初心者の私の至らない所を沢山気づかせて頂き、ファシリテーターとしての学びの機会をいただきました。また、尽きないお話もワークの後の茶話会で盛り上がりました。

最後に、ご参加下さいました皆さまとお会いできて良かったです。有難うございました。

瓜生 みのり
(第二布施福祉作業所)



土曜レク

加納 佳子 (第2東福)

5月の土曜レクは、5月14日(土)に生駒山麓ふれあいセンターで、バーベキューを行ないました。

当日、他に2つ大きい団体が入っていましたが、1つのキャンプ場を貸し切れたので、気兼ねなく過ごせました。ウロウロしても、騒いでも大丈夫です。また、天気にも恵まれていましたが、巨大テントが張ってあったので、心地よく過ごせました。唯一、車がないと不便な場所であることのみが、欠点でした。

本人達は、さすが 日頃お仕事をしているだけあって、野菜を切ったり、道具を出したり、片付けたり、ゲームの準備をしたり、よく手伝ってくれました。特に、場の盛り上げ役は、たくさんいました。快い環境で、楽しくバーベキューが出来ました。

その後、『アイス争奪ゲーム大会』もしました。本人が2回、介助者が1回、ペットボトルにテニスボールをぶつけて、多く倒したペア順にアイスを選択出来るゲームです。

ヘルパーさん達が特に必死なので、本人達も必死になっていました。盛り上げ役は、大事です。必死になり過ぎて1本も倒せないヘルパーさんも続出したり、アイス選択のフライングがあったり、ハプニングも数々ありました。何といっても、アイス選択時に、介助者は、より高価なものを選び、本人は、とにかくより好きな物を選んでいました。ドキドキしながら、選択する本人達の目の輝きを見ると、本人達に選択させる大切さを痛感しました。そんな、のんびり過ごせたレクリエーションでした。

今年度の土曜レクは、高井田障害者センターの方に、色々なスポーツグッズをお借りして、ゲーム大会もしていきたいと思っています。本来のスポーツのやり方ではなく、知的障害者の楽しめるスポーツゲームを高井田障害者センターの方々に教えていただきながら進めていきたいと思っています。

スタッフ不足にあえぐ昨今、至らない事も

多いと思いますが、多くの方のご参加をお待ちしています。

これからの予定

8/16(火) 番外編 いよやかなの郷

9/3(土) ビデオ鑑賞

10/22(土) チヂミ料理教室

～お悔やみ～

会員の方の訃報を聞き、葬儀に参列させていただいて、いろいろなおもいがいつもしています。

先日6月4日、杉山美智子さんが亡くなりました。昭和63年、幼児学齢期部(現在は学齢期部に統合)をつくるきっかけをつくって下さった方で、その当時若いお母さん10人位がご自宅(教会)へお伺いし子育て、進路等の相談をしておりいつもていねいに穏やかに聞いて下さいました。その中で『東大阪市手をつなぐ親の会』のことを教えて下さり、入会し、部会をつくりました。

その当時の仲間は、現在も各作業所の保護者会で活動しています。

家族葬ということで参列はできませんでしたが、お礼を申し上げますとともに、ご冥福をお祈りいたします。(坂本)

◇◇学齢期部会夏イベント◇◇

8/1(月) 親子で遊ぼう

8/8(月) 親子でゲーム

8/22(月) 親子でクッキング

会場 第2東福 多目的室

時間 10時～12時

費用 無料

定員 親子10組

申し込み 高田 (06-6724-4346)

当会への寄附金です

服部 敏明様 500,000円

ありがとうございます。